



Exchange Program 交流プログラム



「第4回福岡トリエンナーレ」では、作品展示のほかに出品アーティストの中から19組を一定期間招へいし、滞在制作、ワークショップ、トーク、上映会、パフォーマンス、コンサートなどの多彩な交流プログラムをおこないます。



アーティスト	滞在・開催予定／おもな交流プログラム
リアン・セコン (フロンペン)	滞在予定: 6月25日～9月8日 長さ90mの立体作品「マカラ(カンボジアの神さま)」を制作し、美術館内外をパレードする
アシヨク・スクマラン (インド/ムンバイ)	滞在予定: 6月25日～7月30日、9月24日～10月20日 博多の街に電飾作品を設置するプロジェクト
浅井裕介 (東京)	滞在予定: 7月28日～8月6日、10月15日～10月26日 美術館内外での絵画の公開制作
ジュー・チュンリン (シンガポール)	滞在予定: 8月5日～9月8日 フィギュア250体が登場するアニメーションの制作やワークショップ
西京人 小沢剛(埼玉) チェン・シャオジョン [陳勁雄] (北京、広州) キム・ホンソク(ソウル)	滞在予定: 6月30日～7月7日 8月29日～9月5日 冷泉荘という古いアパートで制作・展示される日中韓3人組によるインスタレーション作品
アンキ・ブルバンドノ (インドネシア/ジョグジャカルタ)	滞在予定: 8月25日～9月29日 果物や野菜を被写体にした写真の制作
ポスト・ミュージアム (シンガポール)	滞在予定: 9月1日～9月15日 対価を要求しないフリーマーケット、生ゴミ酵素洗剤をつくるワークショップ
アウン・コ (ヤンゴン)	滞在予定: 9月1日～9月24日 和紙を使ってミャンマーの家を模した立体作品の制作
ホアン・ヨンビン (ハノイ)	講演会予定: 9月5日 中国現代美術を牽引してきた作家による講演会

アーティスト	滞在・開催予定／おもな交流プログラム
シャジア・シカンダー (ニューヨーク、ベルリン)	講演会予定: 9月 伝統細密画を革新した作家による講演会
野村誠 (東京)	滞在予定: 9月上旬、10月下旬滞在 銭湯で繰り上げられるお湯のコンサートとワークショップ
AHA! [人類の強みのための] アーカイブ (remo)	滞在予定: 9月上旬、10月下旬 家庭に残っている8ミリフィルムを探して、上映・保存するプロジェクト
アン・ジョンジュ (韓国/ソナム)	滞在予定: 9月15日～11月23日 日常の音を使った映像作品の制作
ツアイ・グオチャン (ニューヨーク)	9月18日 福岡アジア文化賞特別企画(どなたでも観覧できます) 美大生との交流事業「創造の楽しみ」(仮称)
ヤスミン・コピール & ロニ・アフメッド (バングラデシュ)	上映会予定: 9月 ドキュメンタリー映像作品の上映会とトーク
シーマ・ヌズラット (パキスタン/カラチ)	滞在予定: 9月29日～11月23日 福岡のクリエイターたちとモップを使った立体作品を制作
ウォン・ホイチョン (マレーシア/セランゴール)	滞在予定: 9月29日～11月23日 映像・写真作品の制作、クレイアニメーションのワークショップ
比嘉豊光 (沖縄/読谷村)	上映会予定: 10月 映像作品「戦世」の上映会とトーク
ヤオ・ジョンハン (台北)	開催予定: 11月23日 ノイズ系のサウンド・パフォーマンス

※滞在期間と交流プログラムの内容は、変更する場合があります。最新情報は、展覧会ウェブサイト <http://www.ft2009.org/> でご確認ください。※写真はすべて参考



交通案内 Transportation Access	
●市営地下鉄 ■中洲川端駅 下車、6番出口より徒歩すぐ ■福岡空港から 福岡空港駅より9分 ■JR博多駅から 博多駅より3分 ■西鉄福岡駅から 天神駅より1分 ●西鉄バス ■川端町博多駅前バス停下車、徒歩すぐ ●車 ■大宰府方面から 都市高速 千代ランプより車で約7分 ■北九州方面から 都市高速 呉服町ランプより車で約5分 ※昭和通りより、博多リネイン地下の駐車場(有料)をご利用ください。	●By City Subway ■From Fukuoka Airport: 9 minutes to Nakasu-Kawabata Station ■From JR Hakata Station: 3 minutes to Nakasu-Kawabata Station ■From Nishitetsu Fukuoka Station: 1 minute from Tenjin Station to Nakasu-Kawabata Station *The Museum is located above Nakasu-Kawabata Station #6 Exit. ●By Nishitetsu Bus ■Kawabata-machi Hakataza-mae bus stop ●By Car ■From Dazaifu: 7 minutes from the Chiyo Ramp on the Urban Expressway ■From Kitakyushu: 5 Minutes from the Gofukumachi Ramp on the Urban Expressway *Entrance to Hakata Riverain Bldg. underground parking is on Showa-dori.

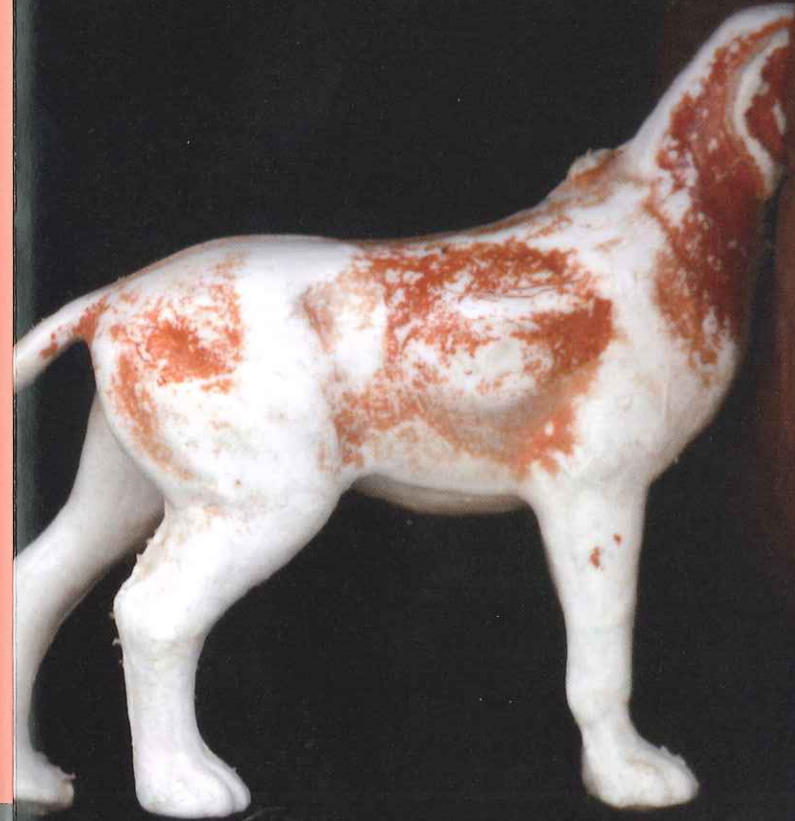
福岡アジア美術館 Fukuoka Asian Art Museum

〒812-0027福岡市博多区下川端町3-1リバレインセンタービル7・8階
7, 8th Floor, Riverain Center Bldg., 3-1 Shimokawabata-machi, Hakata-ku, Fukuoka
Tel : 092-263-1100 Fax : 092-263-1105
URL : <http://faam.city.fukuoka.lg.jp>

福岡アジア美術館 開館10周年記念
Commemorating the 10th Anniversary of the Fukuoka Asian Art Museum

第4回 福岡アジア美術 トリエンナーレ 2009 The 4th Fukuoka Asian Art Triennale 2009

共再生—明日をつくるために
LIVE and LET LIVE: Creators of Tomorrow



アンキ・ブルバンドノ《空腹でいこう》2008年 Angki Purbandono Stay Hungry 2008

2009年
9月5日[土]～11月23日[月・祝]
水曜休館 *ただし9月23日(水・祝)は開館し、翌24日(木)休館

会場 福岡アジア美術館・周辺地域
開館時間 午前10時～午後8時(入場は午後7時30分まで)
観覧料 一般1,000(800)円、高大生700(500)円、中学生以下無料
*()内は前売、団体(20人以上)、シルバー・身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育手帳所持者料金
*前売券は、ローソンチケット(Lコード83193)、チケットぴあ(Pコード688-727)その他プレイガイドで販売

主催: 第4回福岡トリエンナーレ実行委員会(福岡アジア美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送)
後援: 外務省、文化庁、参加各国駐日大使館
助成: 財団法人石橋財団、(財)地域創造、(財)芸術文化振興基金、(財)POLAアート振興財団、公益信託カシマヤ文化基金、
文化・芸術による福祉地域振興財団、(財)福岡県文化財団、(財)三笠UPJ信託地域文化財団、(財)西日本国際財団、
Asahiアサヒビール芸術文化財団、(株)福岡文化財団、(財)西日本国際財団
協賛: 博多リバレイン、九州電力(株)、(株)西日本シティ銀行、西日本鉄道(株)、西部ガス(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)九州電工、
タマホーム(株)、(株)ホークスタウン、筑紫女学館大学・短期大学部

5 September to 23 November 2009
Closed on Wednesdays *Please note that the museum will be open on Wednesday, 23 September, for a national holiday and closed on Thursday, 24 September.
Venue Fukuoka Asian Art Museum and its vicinity
Open 10:00-20:00 (Last Admission at 19:30)
Tickets Adult ¥1,000(800) High School/ College Student ¥700(500) Free for Junior High School Student and under
*() shows a price for an advanced ticket or an individual in a group of 20 or more.
*Advance tickets for this exhibition are on sale at Lawson (Lcode:83193) or Pia (Pcode:688-727) and other ticket sales counters.

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum
〒812-0027福岡市博多区下川端町3-1リバレインセンタービル7・8階
7, 8th Floor, Riverain Center Bldg., 3-1 Shimokawabata-machi, Hakata-ku, Fukuoka

宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。
宝くじは、広く社会に
役立てられています。

アジア21カ国・地域、アーティスト43組による
3年に一度の現代アートフェスティバル



美しく妖しくねる、
全長30mのヘビの骨
ホアン・ヨンビン (黄永斌)
《ニシキヘビの尾》 2000年
Huang Yong Ping Python's Tail 2000
Guy & Myriam Ullens Foundation (スイス) 所蔵

福岡アジア美術館 開館10周年記念
Commemorating the 10th Anniversary of the Fukuoka Asian Art Museum

第4回 福岡アジア美術トリエンナーレ2009

The 4th Fukuoka Asian



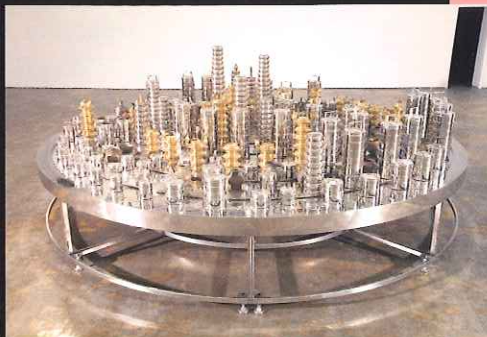
タイからバクスタンへ、ルーツを求めて時空間を旅する
ナウイン・ラワンチャイクン 《復活の地》 2009年
Navin Rawanchaikul Places of Rebirth 2009



巨大な船の解体現場からみえてくる格差社会
ヤスミン・コビール&ロニー・アフメッド 《群像》 2008年
Yasmine Kabir & Ronni Ahmed The Last Rites 2008



藤を編んだ巨大な立体
ソピアップ・ピッチ (デルタ) 2007年
Sopheap Pich Delta 2007



回転する都市の正体はインドの金属食器
スボード・グプタ (スタート・ストップ) 2008年
Subodh Gupta Start/Stop 2008
Artist and Arario Gallery (北京) 所蔵

福岡アジア美術館では、1999年の開館以来3年ごとに、アジア21カ国・地域の現代美術の最新動向を、さまざまな切り口で紹介する「福岡アジア美術トリエンナーレ」を開催してきました。

第4回目となる今回は、《共再生—明日をつくるために》をテーマに、新進の美術作家を厳選して紹介するとともに、福岡アジア美術館の開館10周年を記念して、近年に国際舞台で大きな活躍をしている美術作家も紹介します。これまでのアジア美術の10年の発展を振り返りつつ、これからの10年を展望する展覧会になります。

さらに今回は、福岡アジア美術館の立地をいかし、美術館のなかでの展示にとどまらず、隣接する商店街や学校や公園などでも制作や発表をおこないます。アジア各地から集まった美術作家が繰り広げる活動が、福岡の街にアジアとの多彩な交流の場を生みだしていくことでしょう。

ダイナミックに動きつづけるアジアの現代美術との出会いが、経済危機などの困難な社会・世界のなかで生きるわたしたちを元気づけ、アートと人間の可能性を再確認させてくれるものと思います。

共再生—明日をつくるために
LIVE and LET LIVE: Creators of Tomorrow

「共再生」は、「共生」と「再生」を合わせてつくられたことばです。

「共生」は、自然のなかでの生物間の共生だけでなく、政治的・経済的・社会的・文化的に異なる人々・集団どうしの共生をも意味しますが、現状では、そのような「共生」はとても困難です。アジアでも、グローバル化や経済成長、消費文化の広がりによって、経済格差がますます広がり、他者や自然や歴史への責任感が失われていったからです。さらに、2008年秋に起こった世界同時不況のために、「共生」どころか、他人を蹴落としてでも明日を生きのびることが優先されるようになりかねません。

しかし、個人であれ、あるいは企業、町や村、学校などの組織・集団であれ、他者や、自然や、歴史への責任感のある行動なしには、「再生」は持続的なものになりません。同じことを繰り返すでも、いつまた破綻するかわからない既存のシステムに復帰するのでもなく、新しい「共生」のシステムを生み出す、創造的な「再生」が求められているのです。

そのような「共再生」は、表面的な新しさやスペクタクルを求めず、権力や消費への欲望をも抑制し、身の回りにある素材や空間、伝統文化、他者の経験や智慧、都市システム、自然の生態系などを、斬新な発想と誠意をもって、「生かす／活かす」地道な努力によってこそ可能となるのです。そのような可能性は、専門的な美術家だけではなく、個人が、そして組織や集団が生きながらえるために、「明日をつくる(作る・造る・創る)」すべての人々にも開かれているのです。



心温まるほほえましい母子の姿
マリサ・ダラスワット 《母の乳—搾乳》 2008年
Marisa Darasavath Spirit of Mother—Mother's Milk 2008



入れ歯も吹き飛ばし! おばあちゃんの胸上げ
ランプー・カンサノ 《胸上げ》 2008年
Lampu Kansanoh Cheering Thrown 2008



火薬の爆発で描いた四季山水図 ツァイ・グォチャン (蔡國強) 第20回福岡アジア文化賞受賞者 《四季の歌》 2009年
Cai Guo-Qiang Song for Four Seasons 2009
曹洞宗 萬龜山東長寺 (東京) 所蔵

Art Triennale 2009



沖縄の「いま」とらえた写真
比嘉豊光 (ナナムイ) 1997-2001年
Higa Toyomitsu Nanamui 1997-2001



人間と水の詩的な関係をつづる写真
アトル・バッラ 《水にもぐる》 2007年
Atul Bhalia Submerged 2007

ほかの人にダイヤルを頼める、
これが本当の長電話
ポース&ラオ 《おじ様の電話》 2004年
Pors & Rao The Uncle Phone 2004



細密画のイメージを使った繊細で美しいアニメーション
シャジア・シカンダー 《女神ネメシス》(部分) 2003年
Shahzia Sikander Nemesis (detail) 2003
Artist and Sikkema Jenkins & Co. (ニューヨーク) 所蔵

■参加アーティスト
Participating Artists

- シーマ・ヌズラット
Seema Nusrat
- シャジア・シカンダー
Shahzia Sikander
- アショク・スクマラン
Ashok Sukumaran
- アトル・バッラ
Atul Bhalia
- ポース&ラオ
Pors & Rao
- スボード・グプタ
Subodh Gupta
- アヌラ・クリシュンタ・バラガマ・アラチチ
Anura Krishantha Baragama Arachchi
- サジャナ・ジョシ
Sajana Joshi
- テンジン・ドルジ
Tenzin Dorji
- ヤスミン・コビール&ロニー・アフメッド
Yasmine Kabir & Ronni Ahmed
- アウン・コ
Aung Ko
- ランプー・カンサノ
Lampu Kansanoh
- ナウイン・ラワンチャイクン
Navin Rawanchaikul
- イー・イラン
Yee I-Lann
- ウォン・ホイチョン
Wong Hoy Cheong
- ジュー・チュンリン
Joo Choon Lin
- ポスト・ミュージアム
Post-Museum
- マリサ・ダラスワット
Marisa Darasavath
- リアン・セコン
Leang Seckon
- ソピアップ・ピッチ
Sopheap Pich
- ディン・チ・レ
Dinh Q. Le
- ジュン・グエン・ハツシバ
Jun Nguyen-Hatsushiba
- チュオン・タン
Truong Tan
- アンキ・フルバンドノ
Angki Purbandono
- ザカリヤ・オマール
Zakaria bin Omar
- ジャン・リーロイ・ニュー
Jan Leeroy C. New
- ダヴァー・ドルジェレム
Davaa Dorjderem
- ツァイ・グォチャン (蔡國強)
Cai Guo-Qiang
- ハア・ユンチャン (何雲昌)
He Yunchang
- ホアン・ヨンビン (黄永斌)
Huang Yong Ping
- チウ・ジョーエ (邱志傑)
Qiu Zhijie
- ウー・ジエンアン (鄭建安)
Wu Jian'an
- シュ・ビン (徐冰)
Xu Bing
- マイケル・リン (林明弘)
Michael Lin Minghong
- ヤオ・ジョンハン (姚仲涵)
Yao Chung-han
- アン・ジョンジュ
Ahn Jungju
- キム・ソンヨン
Kim Seongyoun
- キムスージャ
Kimssooja
- 浅井 裕介
Asai Yusuke
- 比嘉 豊光
Higa Toyomitsu
- 野村 誠
Nomura Makoto
- AHA! [人類の営みのためのアーカイブ] (remo)
AHA! [Archive for Human Activities] (remo)
- 西京人
(小沢剛、チェン・シャオロン、陳劭雄、キムホンソク)
Xijingmen
(Tsuyoshi Ozawa, Chen Shaoxiong, Gimhongsok)